



## だいたいポプラ祭開催

～忘れない この青春の輝きを！～



夏が戻ってきたような熱い体育祭

生徒会は準備万端。①オープニング ②ミニ運動会・蓼高クイズ ③ファイアーストーム・ダンス の流れるような進行で、皆を楽しませる見事なイベントを実現してくれました。

フィナーレは、お待ちかねの打ち上げ花火。最後の祭り実行委員長と生徒会長の挨拶には、生徒から惜しめない拍手が贈られました。この半日の短い時間に高密度のイベントを効果的に配置し、生徒に満足のいくものをつくりあげた現生徒会の皆さんと先生方に、私からも感謝をいたします。最後に立岩生徒会長談

『だいたいポプラ祭、大成功でした。皆さんご協力をしてくれてありがとうございました！』



ティラノ君登場！



地域の人も楽しみに



会長、お疲れさま

## 困ったお話(その48) (世にも不思議な物語?)

「だいたいポプラ祭」の蓼高クイズは、先生方をネタにした〇×クイズで楽しんだ。私は『問：校長先生はおばあさんの幽霊にあったことがある。(答：〇)』と出題した。今回はその体験話をしよう。実話である。

それは東京での大学生時代のこと。ある晩私は友人の家でお酒を飲みうかれていたので、いつの間にか12時を回ってしまった。最寄り駅の終電が行ってしまったので、困った私は友人宅から自宅まで、約8kmの道のりを歩くことになった。東京と言っても郊外を通る深夜の品川街道は、車も通らず人っ子一人いない。私は住宅側にブロック塀の続く歩道を、月明かりを頼りにトボトボ歩いた。

突然、ブロック塀が途切れたのが横目で分かった。ふとそちらを向くと、その奥の暗がりには鳥居があり、お稲荷さんの祠があった。しかし私の眼は、祠の前に白いものがあることに気がついた。『なんだろう、人がうずくまっている後ろ姿に似ている』と、思うや否や、それは立ち上がり、ぐるりとこちらを向いたのだ。

それは白い和服を着た能面のような表情のおばあさんだった。そしてス〜っと近づいてきた。

我にかえる私。『逃げなくっちゃ！』 ダッシュすること10分、自宅に駆け込んだ。

これはとんでもない異常事態だ。しかし翌日、友人に話しても本気にしてくれないので、そのうち忘れてしまった。



数か月後、大学の図書館に行った私は文庫本コーナーを何気に眺めていると、『日本全国心霊スポット100』というような本を見つけた。面白そうだったので手に取り、東京都を探してみたら、老婆の幽霊が品川街道を横切るというスポットが載っていた。思わず住所を見た。

そこはまさに、私がおばあさんを見た場所だった。



再現図

## 前川先生の「蓼科学」スタート！～今年はどんなワクワクが？～



10月12日（火）、前川道博先生による「蓼科学2021」がスタートしました。今回のテーマは、～蓼科学アーカイブ：立科町ってどんな町？～です。今年は、生徒各自の関心事から探検先を決め、グループを作り探検。調査に出かけそれをまとめ、立科小学生に町のことを手ほどきし、交流する内容です。その過程で、生徒の調べたことをネット公開しアーカイブ化を進め、のちの資料として誰もが検索できる体制づくりをします。こうして生徒が学ぶことが同時に社会貢献につながるという一挙両得な企画でした。7回授業の初回の今日は、「立科町ってどんな町？」という内容を行いました。「小学生に町のことを教える」という前川先生からのミッションに生徒は驚きましたが、ワクワクした人も多かったと思います。

## 受験に いざ出陣！ ～全員の合格を祈っています～

推薦制度を利用して進学を希望している3年生に、本校では推薦にふさわしい人物かの見極めのため、校長室で面接を実施しています。生徒は面接に備え、自分の志望動機や高校時代のこと、入学からの学生生活から将来の展望などを真剣に考えまとめ、本番さながらの面接で質問に答えなければなりません。進路指導係が今年から始めたこの取り組みはイニシエーションとして、生徒の進路意識を高めるのに大いに役立っていると思います。



さて10月11日（月）、学校長推薦に合格した13名の生徒は、私から受験要項を手渡され、いざ本番へ出陣のポーズをキメました。どうか全員が合格を手にするよう祈っています。

## オルガン譲り受けて望月校へ ～過ぎ行く時代を感じながら…～

本校で不足しているオルガンが長野西高校望月サテライト校に眠っている、という情報を得た私たちは、10月14日（木）、3台の軽トラ隊を組織し当校にお邪魔しました。歴史を感じさせる音楽室には、埃をかぶった足踏み式のオルガンが10台以上も。私も小学生時代、音楽の授業でよく使った昭和の懐かしいオルガンでした。この音楽室がある建物も、間もなく取り壊されるそうです。部屋を見ると、生徒の落書きがあちこちに残り、にぎやかだったかつての望月高校の面影を感じました。帰りぎわにガラんとした音楽室を見ると、過ぎ去る時代を感じ一抹の寂しさがよぎりました。

